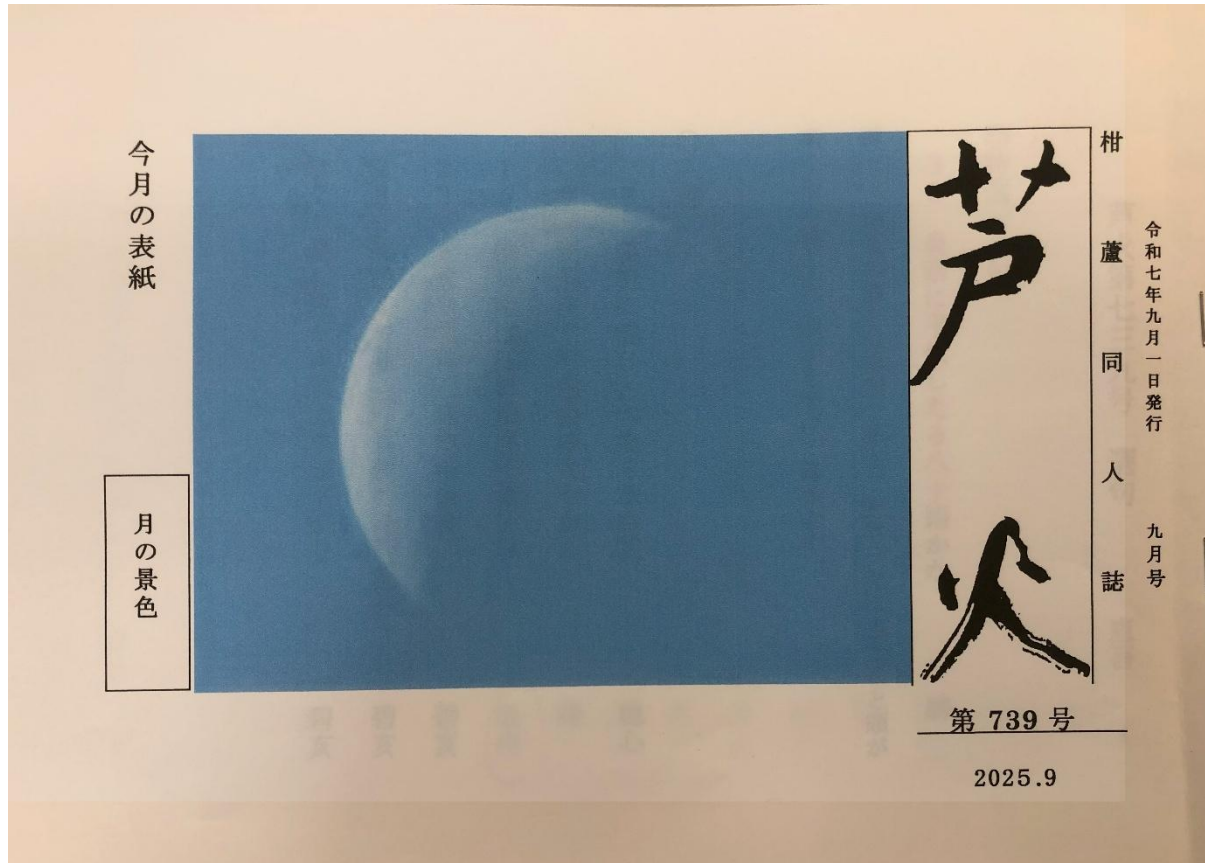


俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第739号（令和七年九月号）

- ・表紙：「月」
- ・来月号（十月号）の兼題



<季語：月（三秋・天文）：子季語：四日月、五日月、八日月、十日月、月更くる、他>

- ・秋の月である。春の花、冬の雪とともに日本の四季を代表する。ただ月といえば秋の月をさすのは、秋から冬にかけて空が澄み、月が明るく大きく照りわたるからである。

「有名俳人の句」

- | | |
|---------------------|------|
| ・鎖（ぢやう）あけて月さし入れよ浮御堂 | 松尾芭蕉 |
| ・月さびよ明智が妻の話せん | 松尾芭蕉 |
| ・われをつれて我影帰る月夜かな | 山口素堂 |
| ・声かれて猿の齒白し峰の月 | 宝井其角 |
| ・月に来よと只さりげなき書き送る | 正岡子規 |
| ・月の庭ふだん気附かぬもの見えて | 高浜虚子 |
| ・月さして一間の家でありにけり | 村上鬼城 |
| ・灯を消すやこころ崖なす月の前 | 加藤楸邨 |
| ・父がつけしわが名立子や月を仰ぐ | 星野立子 |

- ・奥三河芋の葉にのる月夜かな 森澄雄
- ・黒猫の子のぞろぞろと月夜かな 飯田龍太
- ・月祀る万の炎をたたしめて 高田正子

☆高得点者および高得点句

＊前月の清記表に記載された10名の49句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者（敬称略）>

14点 勝、11点 碧亥、9点 善富・恵吾、7点 温州

<高得点句（4点以上）>

- ・水遊びそばに傘さす母のみて／善富・・・・・・・・6点
- ・泣き止まぬ子を風鈴の慰めぬ／勝・・・・・・・・6点
- ・老鶯や大峰山の青き空／温州・・・・・・・・5点
- ・炎帝に平伏したる八十路かな／勝・・・・・・・・5点
- ・初盆の君の還るを待つ灯火／穂心・・・・・・・・5点
- ・鳩鳴くや老いの昼餉の冷素麺／碧亥・・・・・・・・4点

☆その他のトピックス

① 今月号の清記

◎今月は8名の方が合計39句を出句されました。

② 近況報告および通信

◎穂心さんより「小学生俳句おそるべし」というタイトルで以下随想文を頂きました。

先日、伊丹での句会に参加した時の衝撃をお伝えします。

ここの句会は、季語、言葉のリズムはさることながら、心の躍動感を表現することに重点を置いている。従って日常生活での言葉、特に即吟ともなれば

「駄菓子屋が夏休みですなんでやねん」

のような口語体の思わず笑う句が多い句会です。

先日は、兼題が「祭り」、席題は「夏休み」、それに自由題での三句でした。席題は句会当日に一番早く来た人が指名されて決まりますが、席題「夏休み」の雑談の中である小学生が詠んだ句が話題に、結果、冒頭のことばとなりました。

「じいちゃんちじいちゃん居ない夏休み」 です。

言葉は平易ですが、子供の眼から夏休みの帰省に感じた景を上手く表現していました。夏休みの楽しさと、去年まで元気に遊んでくれた「じいちゃん」が今年は居ない寂しさが伝わります。

◎近況報告

・草炎さん、勝さん、六甲さん、善富さん、碧亥さん、要さんからそれぞれ近況報告がありました。

◎「香川支部総会に参加しました」(温州)

- ・支部総会の概要を以下の通り報告させて頂きました。

7月17日(木)神戸支部を代表して香川支部総会に出席しましたが、昨年度までの支部総会はランチを挟んで公共施設の会場で日曜日に開催されていましたが、今年度は親睦会主体の気楽な情報交換の場にしようということで、平日の夕刻にJR高松駅近くの居酒屋で開催されました。

参加者は11名(来賓3名+会員8名)でしたが、支部会員総数が92名ということ考えれば、他支部の参加率を遥かに超える高参加率であります。

因みに、12日に開催された会員数最大の大阪支部(約5,900人)の総会でも51名の参加でありました。

支部長他の幹部の支部運営にかかる情熱をうかがうことが出来ます。

総会の部は、副幹事長の司会進行で進められ、島田支部長、北村柑芦会顧問のご挨拶でスタートしました。続いて令和6年度の活動報告、収支決算報告並びに令和7年度の収支計画(案)の説明および提案が行われいずれも異議無く承認されました。

続いて、年会費について現行の2,000円を令和8年度より3,000円に改定する旨の提案並びに支部長は島田新市様(22期)が退任され、新支部長として現副支部長の梶正司様(31期)が就任される旨の提案がなされましたが、いずれの提案(議案)も異議無く承認されました。

なお、島田前支部長様は、今後は顧問として支部運営に引き続き携わっていかれるとのことでした。

懇親会の部は梶新支部長の乾杯のご発声でスタートとなり、北村顧問、穂永柑芦会編集委員長、小生の3名の来賓がそれぞれ簡単な挨拶を行った後は、出席者がお互いの近況を報告したりして終始和やかな雰囲気の中で進められました。

なお、出席会員の卒業期はまちまちですが、年齢に置き換えると80歳代×3名、70歳代×1名、60歳代×1名、50歳代×3名となっていて現役世代が約半数を占めるようになってきています。

この様に小規模ながらも若手中心の支部運営になりつつあるのも島田前支部長の支部運営にかかる意気込み、情熱があったからこそと思う次第であります。

収支和やかに進められた懇親会も予定の20時30分に山上相談役(11期)の中締めのご挨拶でお開きとなり、なごり惜しくも散会となりました。



讃岐富士(飯野山)



JR 高松駅



高松城址



瀬戸内海



◎ 「エッセイ 終戦日の私 北 道子」

- ・同人 草炎さんから表題のエッセイを投稿して頂きました。
以下に全文を掲載します。

その日私は、学校に行くために準備をしていた。当時、私は、和歌山師範学校 附属国民学校の五年生。学校は和歌山市が空襲を受けて以来、地域ごとに一ヶ所に集まり、先生が一人、一年生から高等科の生徒までの学習の面倒を見る、寺子屋式になっていた。私の家は、市内の西南、高松という地区にある。

ラジオのニュースが始まり、アナウンサーが、本日の正午より、天皇陛下が大切なお話をなさる。全国民、しっかりお言葉を聞くように、と告げた。

学校に着いた私は、先生にそのことを話し、正午までに家へ帰れるよう、早く授業を終わってほしいと頼んだ。先生は放送を聴いていなかったが、皆にこのことを告げ、いつもより早く授業を終わってくれた。

こうして私は、家へ帰って、家族と一緒に放送を聴くことができた。ラジオを持っていない近所の人たちも来て、十人ほどが一緒に「玉音放送」を聴いた。

放送はとても聞きにくかった。雑音が大きく、途切れ途切れにしか聞こえない。「米、英、支、ソ・・・」という言葉が聞こえたから、ソ連も戦争に加わるから一層頑張れという言葉だったのではないか、という意見も出たが、皆が聞き取れた言葉を出し合い、ようやく敗戦の勅語だとわかった。「嘘だ。だまされてはいけない、・・・」という者もいたが、多くの人々が敗戦の勅語だと納得し、それとともに泣き声が大きくなっていった。

私は、その場を離れた。戦争に負けた？信じられなかった。天照大神の子孫の天皇陛下が治める「神国日本」が負けたはずがない。そう思う一方で、毎日のように繰り返される空襲、畑の貧相な収穫物に頼る暮らしを顧みると、敗戦を受け入れるしかなかった。

私は家を出て、痩せた土地を借りて作っている畠へ行った。周囲には誰もいない。足下の芋畑の中に立って、空を見上げた。空は青く、夏の日が照りつけていた。しかし暑さは感じなかった。

だまされた。だまされてきた。大人たちに。国の偉い人に。

もう信じない。偉い人なんか信じない。大人なんて信じない。

これからは自分の目で見、自分で考えたことしか信じない。十歳の子供は「信じる心」を失った。

同じ思いを持った子がいたことを知ったのは数年後である。高校の新聞に、私と同じ思いを吐露した記事がのったのだ。同じような人はこの国中にいるのだろう。おそらくその人たちは、あの敗戦日を知っているから、歴史の教訓を憶えていると思う。私も含め、その年代の者がいなくなったとき、戦争の教訓ははたして伝えられるるか。

今、わたしがおそれているのはその事である。

完

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の10名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メルアド：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メルアド：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メルアド：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上
(文責：平林 温州)